

【取扱い厳重注意】

平成24年5月17日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 飯崎 準

平成24年5月15日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

福島県大熊町役場	町長	渡辺利綱
	元生活環境課長	荒木和治

2 聴取日時

平成24年5月15日午後1時00分から同日午後2時00分まで

3 聴取場所

大熊町役場会津若松出張所

4 聴取者

高嶋参事官
飯崎補佐

※ 複数人で聴取したときは、全員の氏名を記載する。

5 ICレコーダーによる録音の有無等

 あり なし（理由：（「対象者の希望による。」など簡潔に記載））

第2 聴取内容

避難措置について
別紙のとおり

第3 特記事項

なし。

【取扱い厳重注意】

別紙

1 被聴取者の身分

渡辺利綱町長は、当時、町災害対策本部長として、地震・津波による災害及び原子力災害の対応を統括していた者、荒木氏は、当時生活環境課長として避難誘導の指揮を執っていた者である。

2 3/11 14:46の地震後の町内の病院に関する情報収集状況について

地震発生後、沿岸部に対して津波警報が発せられたため、町から広報活動を行った。夕方頃、国道東側の津波被害が大きいということが判明したため、町総合体育館への避難誘導を開始した。この頃、双葉病院に対しても電話で状況を確認したところ、大きな被害の報告はなかった。夜になって、第一原発から3kmの避難指示が出たが、津波の対応で3km圏内はほぼ避難が完了しており、高台にあるため津波からの避難をしていなかった特養施設のサンライトおおくまの避難誘導を行い、23時過ぎまでには、町保健センターへの避難が完了した。

3 3/12 5:44の第一原発から10kmの避難指示について

3/12の午前3時頃、国交省が用意したバス47台が大熊町に到着し、OFC周辺に待機した。6時前後頃、細野補佐官から私(町長)に直接電話があり、「原発から10kmに避難指示が出たので避難して下さい」とのことであった。そこで、防災行政無線による広報をして近所の公民館や集会所に集まってもらった上で、原発に近いところから順にバスを手配していった。

県立大野病院は、双葉町内にある双葉厚生病院との合併準備にあつたため、当時、入院患者が数十人程度しかおらず、町がバスの手配をしていた頃には、既に独自に避難していたようである。

双葉病院の患者は、8時半頃には役場に来て避難者の列に並んでいた。この時刻は、当時撮った写真のプロパティから確認できている。その後、双葉病院の職員が役場内に来て、「重症患者がいるので、本当に患者を避難させなくてはならないですか。残るわけにはいかないですか」ということを申し立てたため、町としては、「国から避難指示が出ているので、したがってもらえないか」ということを話した。また、同職員が、「患者を搬送するのにストレッチャー100台が必要だ」ということを申し立てたため、「町で用意することはできない。それは、病院で準備してほしい」ということを話している。

その後、何時だったかは分からないが、他の地区の避難を完了して戻ってきたバス5台を双葉病院及びドーヴィル双葉の避難のために双葉病院に向け、また、自衛隊のトラックに対して、双葉病院に向かってくれということを頼んでいる。この時、バスの運転手や自衛隊には、ドーヴィル双葉のことは伝えていないと思うが、双葉病院に行けば、双葉病院の職員が、ドーヴィル双葉への手配もするだろうと考えたからである。

バス5台と自衛隊車両が向かったため、私共は、双葉病院及びドーヴィル双葉の避難も完了するだろうと思い、その後、14時前後だったと思うが、各集会所や公民館から

【取扱い嚴重注意】

の避難が終了したとの報告があったため、私（町長）と■■■■生活環境課長は、議長と共に避難先になる田村市の市長にあいさつするため、役場を出発している。

～双葉病院の職員が、バス5台が手配された後に、町役場を訪れて、「まだ避難できない患者がいる」との説明をしたということはないかとの問いに対して～

そのようなことはないと記憶している。バスと自衛隊車両を手配した後は、双葉病院の職員は町役場には来ていないと思う。

～ストレッチャーの手配が必要な状態であった双葉病院の避難が完了したのかどうか、確認するなどの措置は取っていないのかとの問いに対して～

町として、双葉病院の避難が完了したかどうかを確認することはしていない。自衛隊のトラックが双葉病院に向かったことは確認しているので、仮に残留患者がいたとしても、自衛隊において病院職員と話をし、しかるべき措置を取ってくれるだろうという認識だった。

田村市に避難した後も、双葉病院に残留患者がいるという話は、双葉病院から聞いておらず、数日経ってから、院長がいたとかいないとか報道された際に、残留患者がいたことを初めて認知したように覚えている。

町が積極的に確認していれば、残留患者がいることを把握できたかもしれず、その点は反省材料ではあるが、病院から直接残留患者がいるとの報告は受けていない。

以 上